

冬の沖縄 “渡嘉敷島” で体験学習



青少年育成事業の一環として町教育委員会主催の児童・生徒県外研修が12月24日から26日までの2泊3日の日程で行われました。この研修に参加した子供たちの、美しい自然に感動した貴重な体験・思い出などを紹介します。



沖縄研修の思い出

横芝小6年 佐藤 楓

日本で唯一地上戦が行われた所。これが私の沖縄の最初の印象でした。本でしか見たことのないこの地を「自分の目で見てみたい」と思い研修に参加しました。

私の思いとはうらはらに、そこは、楽園でした。サトウキビ畑の白い花が水色の風に揺られ、太陽はキラキラ輝き、海はエメラルドの宝石よりも

深い色で私を迎えてくれました。「本当にここで死んだ人がいるなんて、信じられない。」と思いました。

沖縄の渡嘉敷村歴史民族資料館には、戦争中の写真が展示されていて、道にたおれた兵士や私と同じ位の年の女の子達の集団自決の様子がたくさんありました。私の頭の中は、真っ白になりました。本



で見るのと写真を目の当たりにするのは、大違いで気温22度だというのに背中が寒くなり、手足が凍りつく感じがしました。そして次の瞬間「誰が始めて、誰が悪かったのか。」と、思いめぐらせていました。

沖縄の人々は、その気候と同じように温かく、ゆったりとしていて優しいのです。お土産屋のおばさんも、たくさん荷物になった私の紙袋を見て大変だろうと手かけをつけてくれました。また、沖縄の方言には、サヨナラという言葉がないそうです。その代わりに「また会いましょう」